今年度刊行の県史料紹介

黎明館調査史料室では、今年度に刊行する『鹿児島県史料』の校正作業が大詰めを迎えています。これまで刊行してきた『鹿児島県史料』は、今回紹介する2冊を加えて102冊を数えます。

以下、3月刊行予定の『鹿児島県史料』を御紹介します。

『旧記雑録拾遺 地誌備考八』

「地誌備考」は、旧薩摩藩領の地誌を郡郷ごとに編さんしたもので、地域に関する文書・系図・記録などが網羅されています。本年度刊行の『地誌備考八』には、以下の地域・史料を収めました（なお、「地誌備考」は本冊で刊行が一旦、終了となります）。

(1)「日向地誌備考　追録一」
諸縣郡沿革　真幸郷　加久藤郷　飯野郷　小林郷
須木郷　高原郷　高崎郷　野尻郷　綾郷　高岡郷
倉岡郷　関ヶ原乱後稲津狼藉一件

(2)「日向地誌備考　追録二」
上三俣郷　下三俣郷　山之口郷　三俣院記
三俣院古雑記　御居城由来記

(3)「日向地誌備考　追録三」
日向国宮崎縣大小区町村表　南諸縣郡　志布志郷
大崎郷　大崎誌飯隈山書出　松山郷　地理志

(4)「日向地誌備考　追録四」
都城郷　神社仏閣上梁文写　島津の字出所考　荘内郷
都城・末吉古雑記

※いずれも東京大学史料編纂所蔵

はじめに、「追録一」の「関ヶ原乱後稲津狼藉一件」は、稲津掃部助祐信を中心とした地域の有力武士達の動向をまとめた史料です。次に「追録二」では、当該地域の南北朝期の様相や北郷氏を中心とした戦国期の抗争について紹介しています。そして「追録三」に収録された「大崎誌飯隈山書出」は、薩摩藩内における本山派修験の中心地であった「飯隈山蓮光院」に関する史料を数点、掲載している事が特徴です。また、「追録四」では都城を中心とした庄内地域に関する記載が多く、都城島津家によって編さんされた「庄内地理志」との関連性も見られます。

『名越時敏史料十』

昨年度刊行した『名越時敏史料九』に収めた「群書合輯（一）～（四）」の後を受けて、今年度は残りの（五）～（十六）までを収録します。名越時敏が書写した史料群で、それを島津家編輯所が再度筆写したものになります。なお、過去に刊行された『鹿児島県史料』に収められている史料は本文の一部、又は全文を省略しました。収録された主な史料を以下に記します。

(1)「群書合輯（五）」
「市来次左衛門　御城御座之間記」「加藤清正被為進上候鎌鑓等之愚考」「桜田御成之節被進候御太刀拵之儀同」「曾小河地名之唱同」「木脇刑部左衛門祐春聞書」「木脇賀左衛門祐盛聞書」「加治木衆中帳抜書」「島津折烏帽子一件」

(2)「群書合輯（六）」
「濃州関ケ原御陣場案内口上覚書」「忠恒様御感状」「大山稲助覚書」

(3)「群書合輯（七）」
本文はすべて省略

(4)「群書合輯（八）」
「御文書裏打之事」

(5)「群書合輯（九）」
「徳川幕府年中行事」「諸伝聞書幕府辺之事」「稲葉石見侯堀田筑前侯を刺殺之論」

(6)「群書合輯（十）」
「御先祖以来廟堂要覧」「御廟所調」「大龍寺由緒書」「御記録方神社調」「神社由緒并御進納物調」「大根占川上大明神・大姶良岩戸大明神禁忌事件」

(7)「群書合輯（十一）」
「重尚丈名矢」「白尾家鎗術伝来由緒書」「鈴木弥藤次話留」「武術流祖録抄」

(8)「群書合輯（十二）」
「琉人立之諸事件」「公辺諸御礼定」「諸郷地頭付安永比」「継豊公御代御縁類之御大名様方御由緒調」「元服之家々連名」

(9)「群書合輯（十三）」
「福昌寺年代記」「天保初年万留」「伊集院妙円寺出火之事」「橋市郎右衛門所持之古日記」「島津中務日記」「島津久憑日帳抜書」

(10)「群書合輯（十四）」
「御倹約掛久保平内左衛門吟味書」「久保氏駿台雑話正成篇之弁」「竹迫藤四郎宿許状」

(11)「群書合輯（十五）」
「天保比水戸軍役手当聞書」「試策」「大戸氏より来候書面」「某氏ニ来候書面」「守国氏江来候手紙写」「長谷川より来翰」「綱介申越候状之内抜書」「荷厄岐戦記翻訳本」「喀什噶尓征伐之事清国ヨリ琉球ニ報知書」「舶砲新篇目録」「米国船浦賀入港之事聞合書」「千八百五十五年頃外国風説書」「寺社奉行水野左近将監様江御家来塩谷甲蔵より上書」「浦上切支丹宗教徒取扱一件」「両御旗本」「御使節一件」

(12)「群書合輯（十六）」
「三位様御不例ニ付瑞聖寺江被為入との事ニ付御先例糺」「信証院様御事蹟参考」「蒲生谷口旧記」

※いずれも東京大学史料編纂所蔵

ご覧いただくと実に他種多様な史料が収録されていることがわかります。この中で特に「群書合輯（八）」の「御文書裏打之事」は、島津家文書成立の一端を明らかにできる注目すべき史料です。他に「群書合輯（十五）」には、幕末における諸外国の史料（荷厄岐戦記・清国より琉球への報知書・米国船の浦賀入港・外国風説書など）を多く収録しており、日本だけにとどまらない名越時敏の興味関心の幅広さを示しています。

学芸員 EYES!

学芸員イチオシの収蔵資料を紹介します。

第2回 大正～昭和初期の蒸気機関車・路面電車

全集中で電車を楽しみたい!!

♪♪ガタンゴトン、ガタンゴトン‥♪♪　乗り鉄、撮り鉄、音鉄、呑み鉄、駅弁鉄、時刻表鉄など、〇〇鉄という熱心な鉄道ファンの方が多くいますが、社会現象にもなった『鬼滅の刃』は時代設定が大正ですので、登場する蒸気機関車は、当時の標準形の「ハチロク」がモデルといわれており、鹿児島県内でも多く走っていました。大正3（1914）年から昭和初期にかけて内閣鉄道院（のちの鉄道省、国鉄の前身）が導入した国産蒸気機関車で、展示中の8621号機は8620形の2号機として製造され、「ハチロク」の愛称で親しまれていました。現在、58654号機がJR九州の「SL人吉」として団体臨時列車の走行をしています。

また、鹿児島市に路面電車が誕生したのは大正元年で、民間の鹿児島電気軌道株式会社が武之橋～谷山間（谷山線）の約6.4kmを運行していましたが、昭和3（1928）年に鹿児島市が買収し、「市電」となりました。

私は、「揺れ鉄」？「寝る鉄」？でしょうか。旧伊敷線の終点「伊敷町」電停の近くで生まれましたので、電車の音や揺れを子守唄のように体感していたのかもしれません。コロナ禍が一刻も早く終息し、以前のように鉄道の旅を楽しんだり、通勤・通学手段として電車を利用する日常に戻ってほしいですね。

8620形8621号蒸気機関車（模型 1/20）

31形62号電車（模型 1/20）

常設展示1階 近・現代のおごしまコーナーで展示中

学芸課
学芸専門員
藤﨑 公晴
（歴史担当）

・展示中の電車（模型）は，観光レトロ電車「かごでん」（市電運行100周年記念）よりも古い形式であり，明治末期に製造された木造電車を鹿児島電気軌道株式会社が大阪市電気局から当時4,800円で購入した。
・旧伊敷線（加治屋町～伊敷町）3.9km　昭和60（1985）年10月1日廃止

ご存知ですか？

黎明館の建物

黎明館は文化勲章を受賞した谷口吉郎（1904～79）が設計した建物。谷口は機能的な造形を理念とするモダニズム建築の権威で、作品には東宮御所をはじめ、帝国劇場、出光美術館、東京国立博物館東洋館、東京国立近代美術館などがあります。
黎明館の意匠設計が完了したのは昭和50（1975）年のこと。その後8年を要して昭和58年10月に開館しました。

屋根瓦は“いぶし銀”

屋根瓦に注目！

外壁の全体的なプロポーションは、日本的な佇まいのある切妻造の二棟の建物が平行に並び、その間に中庭と水庭を配した和風の現代建築です。
屋根には鹿児島県の特産で“いぶし銀”と称された本磨きの日置瓦が用いられています。

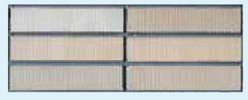
壁は陶製のタイル

タイルに注目！

谷口は石川県金沢市の九谷焼の窯元に生まれており、陶製のタイルを用いた作品が数多くあります。黎明館においても、とりわけ特徴的なのは外壁や内壁に用いられたボーダータイル。外壁は釉掛けした目の粗い白色タイルで整然と構成される一方、内壁には色目が微妙に異なる素焼きのような風合いのタイルが用いられ柔らかな趣です。

外壁のタイル

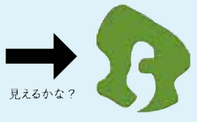
内壁のタイル



空から見てみよう

カタチに注目！

二つの建物の中央に配された水庭に望岳堂（六角形の建物）が浮かび、あたかも鹿児島県本土の地図のような造形が現れます。

敷地面積　約44,480㎡
建築面積　約7,227㎡
延床面積　約15,985㎡

見えるかな？